

新潟職能短大通信

「チェンジンとチャレンジでチャンスをし」

夏祭りも終わり実りの秋が近づいてきました。今年には、夏の日照不足と長雨の影響で作物の出来が心配されるところです。ところで、先進国をはじめとする世界経済は依然不透明です。地球の温暖化も差し迫った問題ですが世界の足並みをそろえることは容易ではありません。新興国といわれる中国やインド、ブラジルなどがその経済力を背景に発言力を増してきました。そうした中で地球に優しい低炭素革命をすすめるためには、堪え忍ぶエゴではなく儲かる仕組みづくりが必要で、ものづくりには、これまで以上の知恵と工夫と技が求められています。

先日、長岡市郊外にある金属加工の株式会社池田機工を訪問しました。レーザーを使った精密板金加工などを得意とする企業です。今年四月に行われた「第二十一回優秀板金製品技能フェア」で社員がつくった作品が金賞(厚生労働大臣賞)を受賞しました。日本をはじめ世界九カ国から

二百六十点の応募があったそうです。一枚の板でつくった作品もすばらしいですが、池田社長の加工に対する姿勢がすばらしいと感じました。「いかに熱をかけるに金属を切断するかがポイント」、「レーザーは生き物、その日の温度、湿度に依りてきめ細かく加工条件を変えることが大切」。また、商売の心得として「あなたが先に儲けてください、その後、私が儲けます」を信条としています。製造業はどこも厳しい状況が続いていますが、池田社長のこうしたチャレンジ精神がオンリーワンへつながるのではないのでしょうか。



金賞 (株)池田機工

ところで、七月十八日当校において工作体験教室を中心とした「ポリテクフェア」を開催し大勢の方々楽しんでいただきました。

呼び物として「セグウェイ」の体験試乗会も行い大変な人気ぶりでした。この「セグウェイ」は倒立振子の原理を基に制御理論を駆使したハイテクな乗り物ですが、実は二十数年前に日本の研究者によってその基本技術が発明され日本国内で特許化されました。しかし、米国の企業がセグウェイを、商品化したことから日本の研究者との間で問題となり、日本での販売が一時中止になった経緯があります。それはともかく恐る恐る試乗してみました。二輪車ですが意外と安定しています。力を抜いて進みたい方向に視線を向ければ自然に移動します。スキーと似ている感じもします。少し練習すればすぐにセグウェイとの一体感を味わうことができます。ちなみに一台百万円で公道は走れません。



工作体験教室



セグウェイに試乗

かに早く実用化し改良・改善を加えてコストダウンを図るかが最も重要な点です。中小企業にあっては小さいながらも何らかの独自技術や差別化できる得意技を持つことが求められます。今、温暖化対策がすすむ中、ものづくりの内容も変化しつつあります。新たな産業構造の構築に向けて様々な試行と模索が始まっています。走っていれば見えるものも、止まっていれば見えない場合があります。常にチャレンジを続ける必要があります。

新潟職業能力開発短期大学校

校長 平塚 剛一